

5 教育普及

(1) 通年講座・教室

ア 地質学講座

化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や熊本の大地に関する通年講座。6月から隔月で5回開催した。

日付	内 容	参加者
6/16	江津湖の成り立ち	42 名
8/18	南海トラフ地震・植物の進化	39 名
11/17	熊大アンモナイト展見学	23 名
12/15	熊本城復旧シンポジウム	29 名
2/15	新規標本・八潮陥没の地盤・能登の状況・推薦図書	29 名

イ 植物学講座

野外観察会や室内学習を通して、身近な自然や生物への興味・関心を高めることを目的とした通年講座。8月から12月まで全5回実施した。

日付	内 容	参加者
8/2	特別展「旅するタネ」解説および観覧	32 名
9/15	野外観察会（立田山）	29 名
10/13	野外観察会（金峰山）	14 名
11/10	野外観察会（江津湖）	29 名
12/6	薬用植物について※	32 名

※講師 渡邊 将人 氏（熊本大学薬学部薬用植物園）

ウ 保存科学講座

様々な劣化要因から資料を守るポイントや文化財の作成方法を体験しながら学ぶ通年講座。5月から3月まで全6回を実施した。

日付	内 容	参加者
5/11	保存科学とは	12 名
7/13	文化財害虫と被害例	15 名
9/7	被災資料の応急処置	10 名
11/9	文化財の写真撮影とフィルムの管理	19 名

1/18	埋蔵文化財の保存処理方法	中止
3/15	文書修復と装訂について	12 名

エ くまはくのゆるゆる美術部

熊本市内の「美術」について“ゆるく”調べ、学ぶ通年講座（年3回）。うち、1回は館外の見学会。また、番外編として資料整理の会を1回開催。

日付	内 容	参加者
6/23	当館収蔵の刀剣と絵画の紹介	23 名
10/27	収蔵品展見学・解説	25 名
12/13	（番外編）資料整理の会	11 名
3/23	見学会（雲巖禅寺）	15 名

オ 古文書講座（実践編）

古文書読解の実践力を養成する通年講座。5月から3月まで全6回を実施した。

日付	内 容	参加者
5/18	講座説明・テキスト配布	29 名
7/20	「先祖附」翻刻解説	21 名
9/21	「先祖附」翻刻解説	24 名
11/16	「先祖附」翻刻解説	20 名
1/18	「先祖附」翻刻解説	17 名
3/15	「先祖附」翻刻解説	13 名

カ こども科学・ものづくり教室

（ア）実施の経緯

熊本博物館は開館以来、自然・文化・歴史資料などの保存・継承と、それらの価値や魅力を発信する拠点としての役割を担ってきた。

これに加え、現在は多様化する人々のニーズに応じた学習活動支援をはじめ、多面的な機能を発揮することが求められるようになって久しい。

そのような中、当館では青少年が楽しく活動しながら自然科学の原理や技術（歴史や伝統文化に関する内容も一部含む）を体験的に学ぶことのできる機会を提供する目的で、平成11年度より「こども科学・ものづくり教室」を開催している。

(イ) 令和 6 (2024) 年度の取組

平成 30 年 (2018) 12 月 1 日のリニューアルオープン以来、当館に新設された「実験・工作室」と「講堂」を主会場に、南区城南町にある姉妹館：熊本市塚原歴史民俗資料館（以下、「塚原歴史民俗資料館」）も利用しながら、年間 25～30 日に及ぶ教室を行っている。

令和元 (2019) 年度は 28 日間の開催で 2,067 名の参加があったものの、当該年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、臨時休館やイベント自粛等の措置を余儀なくされた。

令和 2 (2020) 年度は全 23 日間：697 名、令和 3 (2021) 年度は全 23 日間：898 名、令和 4 (2022) 年度は全 29 日間：1,040 名と、コロナ禍にありながらも徐々に参加者実績を戻してきた。そして、令和 5 (2023) 年度のGW明けには感染症法上の位置付けが 5 類に移行し、ほぼ通常の運営が可能となったことで、32 日間：1,366 名を受け入れるに至った。

内容は、理工分野に関する科学実験や科学工作が中心であるが、地質・植物・保存科学分野に関する内容も担当学芸員に依頼して数回ずつ行った。

参加者の低年齢化等で、技術的に細やかな支援が必要となる教室においては任意の教育団体である熊本市ものづくりサークル会員に実技補助や運営面での協力をお願いした。

また、崇城大学との共催イベント、熊本大学や熊本県立大学との協働イベントを継続実施するなど、本年度も教室内容の充実を図った。

最終的には 34 日間：延べ 59 回の教室を行い、1,460 人（内：子ども約 6 割）の参加があった。

(ウ) 実施内容

◎ 空気砲ボウリングを楽しむ

段ボール箱の一つの面に、丸い穴（面の短い辺に対して 3 分の 1 程度の長さを直径とした円）を空けただけの「空気砲」。箱を叩くとドーナツ状の空気が目に見えない「空気の玉」となって直線的

に進んでいく。箱の中に煙（スモーク）を溜めて叩くと、ドーナツ状のリングが周りの空気を引き込みながら飛んでいく様子が確認できた。

空気の性質（粘性・弾性等）について紹介した後はプラコップをピンに見立て、空気砲で倒す活動も取り入れ、親子で楽しんでもらった。

日 時 4 月 13 日（土）

①10：00～11：00

②14：00～15：00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均（当館研究員・理工）

参加者 2 回合計：51 名



空気砲ボウリング

◎ ミョウバンの結晶を作ろう

小学校 5 年生の理科単元「ものの溶け方」の学習と関連する内容。温度による溶解度の違いを利用し、プラスチックケースの中央部分に吊るしたミョウバンの種結晶（エナメル線の先端を熱して結晶と溶接しておく）を少しでも大きく成長させる体験教室である。

種結晶を吊るしたケース内には約 60℃の飽和ミョウバン水溶液を満たし、発泡スチロールの容器内で翌日まで静置しておく。容器からケースを取り出し、大きくなった結晶に感嘆の声を漏らす子どもたちの笑顔は結晶に勝るとも劣らない。

日 時 5 月 5 日（日・祝）

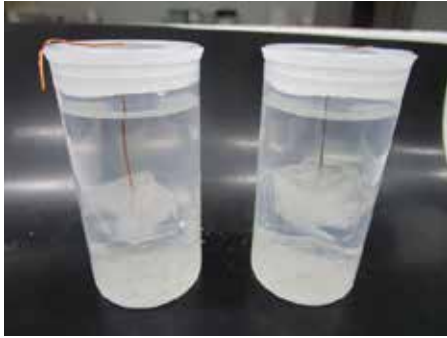
①10：00～11：00

②14：00～15：00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均（当館研究員・理工）

参加者 2 回合計：39 名



少し成長したミョウバンの結晶

◎ 風船CDホバークラフトを作ろう

小学校3年生の理科で、「風やゴムのはたらき」を学ぶが、その内容を「ものづくり」を通して改めて理解するのに役立つ。CDホバークラフトの製作中には空気を吹き出しながら接地面の摩擦力を抑えて進む様子から「慣性の法則」にまで話題を広げた。

日 時 5月18日(土)

①10:00～11:00

②14:00～15:00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 2回合計:43名



風船CDホバークラフト

◎ おもしろ実験・工作に挑戦!

カードリングを使った手品(落ちないリング)、折り紙で作る「空飛ぶお魚君」、水に入ると絵が消える「いない・いない・バア」など、光の全反射やベルヌーイの定理、振動と回転、ものの動きに関連する製作体験コーナー:全5ブースを開設。

数少ない「自由参加型」の教室でたくさんの親子に楽しんでもらった。

日 時 ① 6月8日(土) 13:30～15:30

② 7月27日(土) 13:30～15:30

場 所 ① 塚原歴史民俗資料館

② 博物館「実験・工作室、講堂」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

教育普及支援員:2名

協力者 ものづくりサークル会員:全10名

参加者 2回合計:151名

◎ 箱の中に虹を作ろう

自然光の構成やスリットを介した分光の仕組みについて学ぶもの。

分光シートは1辺2cmあたり:5,000本の筋が縦横に刻まれた仕様のものを用いた。分光シートを目に近づけ、自作のスリットを蛍光灯などの光源に向けると(太陽を直接見てはいけない等の注意点を伝える)、切り抜いたスリットの形がそのまま美しい虹色のスペクトルとなる。

日 時 ① 6月22日(土)

(1)10:30～12:00

(2)14:00～15:30

② 11月9日(土) 13:30～15:00

場 所 ① 博物館「実験・工作室」

② 塚原歴史民俗資料館

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 3回合計:76名



虹の箱(各種)

◎ 水中UFOキャッチャーを作ろう

浮力について体験的に学ぶことのできる楽しい内容。水を満たした炭酸系のペットボトル(500mL)に、水と空気の量を調節した金属フック付きの浮沈子(魚型たれビン)を入れる。ふたを締めてペットボトルに力を加えると浮沈子の容積が小さく

なるため浮力も小さくなって沈む。

市販の浮力実験装置との併用で参加者の理解を促すよう工夫した。

日 時 ① 7月6日(土) 13:30～15:00

② 8月31日(日)

(1) 10:30～12:00

(2) 14:00～15:30

場 所 ① 塚原歴史民俗資料館

② 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 3回合計: 58名

◎ 宙返りバードを作ろう

翼の形や傾きが生み出す「揚力」について体験的に学ぶことができる教室。壁や畳などの断熱材として使われているスタイロフォームを電熱線カッターで1mm程度の厚さにスライスしておく。それを定型に切り取って鳥の形に組み立て、頭部に厚紙のおもりを接着すると完成。

一回転宙返りする様子を歓声が上がる。

日 時 ① 7月9日(日)

(1) 10:30～12:00

(2) 13:30～15:00

② 9月2日(土)

場 所 ① 博物館「実験・工作室」

② 塚原歴史民俗資料館

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 3回合計: 63名



宙返りバード

◎ 紙パックカメラを作ろう

レンズの働き、光の直進や屈折、虚像や実像に

ついて学ぶ科学工作で、カメラと目の仕組みの共通点についてもふれた。

1リットル紙パックと凸レンズを組み合わせて簡易カメラを製作し、感熱紙を用いた写真撮影も行った。スクリーン上に結ばれた像が上下左右、反転する現象も確認することができた。

日 時 ① 8月3日(土)

② 9月14日(土)

両日とも 13:30～15:00

場 所 ① 塚原歴史民俗資料館

② 博物館「実験・工作室、屋外」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 2回合計: 39名

◎ 液体窒素実験ショー

地質担当学芸員による液体窒素実験ショーは、温度による物質の三態変化と体積変化を利用した驚きの実験・現象の数々を披露するもの。

バラバラになる「薔薇」、弾まないゴムボール、液体窒素燃料ロケット、フライパンの中で踊る液体窒素(ライデンフロスト現象)など、超低温の液体窒素が織り成す不思議な世界をお見せした。

日 時 8月10日(土)

① 11:30～ ② 13:30～

③ 15:00～(各回 20分)

場 所 博物館「講堂」

指導者 南部 靖幸(当館学芸員・地質)

山口 均(当館研究員・理工)

参加者 3回合計: 120名

◎ 大気圧と真空の実験ショー

「空気」と「真空」をテーマに、気圧差によって生じる様々な現象を展開する定番のショー。

お湯と容器を使った噴水実験や空き缶つぶし、真空ポンプを使った「膨らむ風船・水の減圧沸騰」などを披露した。普段は、その存在すら意識することの少ない「空気」のパワーを感じることができる内容とした。

日 時 8月13日(火)

① 11:30～ ② 13:30～

③15:00～(各回25分)

場 所 博物館「講堂」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 3回合計:113名



大気圧実験ショー

◎ ウインドカーを作って走らせよう!

輪ゴムの弾性と直径の異なるプーリーを組み合わせることで、風を受けながら風上に向かって進む車を作って走らせた。

風の強さや車に当てる風向きを工夫しながら、試行錯誤して車が(風に抗って)動き出したときには、参加者の表情が輝く。

日 時 9月28日(土)14:00～15:30

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 25名



風に向かって走るウインドカー

◎ 葉脈標本でしおりを作ろう

植物体の葉脈の種類や働きについて学ぶ内容。

用いるヒイラギとヒイラギモクセイの葉は、事前に強アルカリ性水溶液で20分間程度煮込み、冷却後にしっかりと水洗いして食酢で中和しておく。

子どもたちは歯ブラシを使い、軽く上から叩く

動作を繰り返して葉から葉肉を剥ぎ落とし、水洗い・水きり・風乾後に葉脈をラミネート加工して「しおり」に仕立てた。

日 時 10月27日(日)

①10:30～11:30

②14:00～15:00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 瑞貴(当館学芸員・植物)

山口 均(当館研究員・理工)

参加者 2回合計:26名



葉脈標本「しおり」製作の様子

◎ くるくる回るシャボン玉を作ろう

光(と色)の三原色、残像の重なり、遠心力の働きなどについて学ぶ科学工作。

光の三原色をモデル的に表した赤・緑・青色の着色シート(OHPシート:6mm幅)と色を塗らない無色透明のシートを各2枚ずつ、合計8枚をボール状に組み立て、中心に通した竹軸をゆっくり回すと本物のシャボン玉のように見える。

日 時 11月17日(日)

①10:30～12:00

②14:00～15:30

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 2回合計:46名

◎ アンモナイトのレプリカを作ろう

地質年代や化石のでき方、化石から得られる情報などについて学ぶもの。アンモナイトの型枠に石膏を流し込んで固めた後、型枠から外して墨を塗って仕上げる。作業の途中、アンモナイトに関するプレゼンテーション解説や、水を張った水槽

にオウムガイの殻を浮かべる演示なども行って参加者の興味・関心を高めた。

日 時 11月24日(日)

①10:30～12:00

②14:00～15:30

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 南部 靖幸(当館学芸員・地質)

山口 均(当館研究員・理工)

松下 公博(当館教育普及支援員)

参加者 2回合計:40名



アンモナイトのレプリカ

◎ プログラミング・チャレンジ 2024 Autumn

くまもとプログラミング教育推進協議会の全面的な協力のもと、市販のプログラミングロボットを操り、いくつかのミッションをクリアしていく楽しさを感じてもらうイベントを開催した。

遊びながらプログラミングやミニロボットに触れ・学ぶ体験ができるということで、参加者は生き生きとした表情で活動に没頭していた。

日 時 11月30日(土)

①10:00～11:20

②12:30～13:50

③14:40～16:00

場 所 博物館「実験・工作室、講堂」

指導者 熊本県立大学職員及び学生

熊本大学職員及び学生 全15名

参加者 3回合計:74名



プログラミング・チャレンジの様子

◎ 静電気実験ショー

秋から冬にかけて人々を悩ませる「静電気」について学ぶ実験ショー。静電気を利用した定番の実験(アルミ缶のお散歩・電気クラゲ)や静電気発生装置(バンデグラフ)を使ったミニ放電「雷発生」実験など、ワクワク・ドキドキ、楽しさと驚きの時間を共有した。

日 時 12月7日(土)

①11:30～ ②13:30～

③15:00～(各回25分)

場 所 博物館「講堂」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 3回合計:46名

◎ 電波教室&クリスマスイルミネーション作り

身近にある様々な電波の特性や送受信の仕組み等について学んだあと、電子工作として「クリスマスイルミネーション」の製作に取り組んだ。最後には部屋の電気を消して一斉にイルミネーションを点灯し、美しい光の点滅を楽しんだ。

日 時 12月14日(土) 13:30～15:00

場 所 講堂、実験・工作室

指導者 日本アマチュア無線連盟熊本県支部員及び、熊本県電波適正利用推進員協議会員 全7名

参加者 32名



製作した「クリスマスイルミネーション」

◎ 静電気グッズを作って遊ぼう

摩擦によってプラス・マイナスに帯電した物質間に働く斥力と引力を体感的に学ぶための科学工作。ビニル紐（PP 紐）とペンシルバルーン双方にマイナス電荷を帯びさせ、PP 紐を宙に浮かせる「電気くらげ」や静電気ベルの製作を行った。

電気くらげでは、ビニル紐をプラスに帯電させて風船と引き合う現象も披露し、摩擦する物の違いによっては帯びる電荷がプラスになったりマイナスになったりすることを示した。

日 時 12 月 21 日（土）

① 10 : 30 ~ 11 : 30

② 14 : 00 ~ 15 : 00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均（当館研究員・理工）

参加者 2 回合計 : 33 名



静電気ベル

◎ 活性炭電池を作ろう

電池の仕組みと働きについて学ぶ内容。コイン電池や木炭電池などを通して電池は身近な材料でも簡単に作れることを実演した。また、基本的な

構造は 2 種類の金属と電解溶液の組み合わせであることや 2019 年のノーベル化学賞で話題となったリチウムイオン電池についてもふれた。

作り方を説明した後で一人 2 個ずつ活性炭電池を作り、直列つなぎにするとパワーアップすることを電子オルゴールの音量やモーターの回転速度の違いで確かめた。

日 時 ① 1 月 11 日（土）

(1) 10 : 30 ~ 12 : 00

(2) 14 : 00 ~ 15 : 30

② 2 月 8 日（日）10 : 30 ~ 12 : 00

場 所 ① 博物館「実験・工作室」

② 塚原歴史民俗資料館

指導者 山口 均（当館研究員・理工）

当館教育普及支援員 : 2 名

参加者 3 回合計 : 37 名



活性炭電池づくりの様子

◎ コイルモーターを作って回そう

磁界と電流（電荷）の相互作用によって生じる力（フレミングの左手の法則）について学ぶもの。

コイルの形を円形に保持したり、エナメル線の巻き始め・巻き終わりを紙やすりで剥がしたりする作業が難しいため、製作補助具を工夫して技術面での支援を行った。

日 時 ① 1 月 25 日（土）

(1) 10 : 00 ~ 11 : 30

(2) 14 : 00 ~ 15 : 30

② 3 月 20 日（木・祝）

13 : 30 ~ 15 : 00

場 所 ① 博物館「実験・工作室」

② 塚原歴史民俗資料館

指導者 山口 均 (当館研究員・理工)

参加者 3 回合計 : 37 名

◎ 紙バック (Back!) を作ろう

ねじれたゴムが元に戻ろうとする性質 (弾性) について学ぶことができる簡単な科学工作。

製作物を前方に 1~2m ほどゆっくりと転がすと、手元に戻ってくるのが楽しくて何度も繰り返して遊ぶ子どもたちの姿が随所に見られた。

日 時 2 月 2 日 (土)

① 10 : 30 ~ 11 : 30

② 14 : 00 ~ 15 : 00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均 (当館研究員・理工)

参加者 2 回合計 : 38 名



紙バック (Back!)

◎ 銅鏡のレプリカを作ろう

銅鏡の製造技法について、体験を通して学ぶ内容。銅鏡の鋳型に融かした低融点合金を流し込んでレプリカ作りを行った。参加者たちは鏡面の部分を耐水ペーパーで磨く作業に苦戦しながらも楽しんでいた。製作前には、銅鏡の意義・種類・材質等についても担当学芸員が解説を加えた。

日 時 2 月 22 日 (土)

① 10 : 00 ~ 12 : 00

② 14 : 00 ~ 16 : 00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 坂本 直也 (当館学芸員・保存科学)

山口 均 (当館研究員・理工)

井手 正昭 (当館教育普及支援員)

参加者 2 回合計 : 49 名



銅鏡のレプリカ

◎ 触れて 作って！半導体がここにもあるよ！

世界的な半導体企業が熊本県内に進出し、第一工場は稼働を始めた。今、熊本では半導体関連の話題がメディアを通して毎日のように報道されている。そのような時機を捉え、熊本大学の先生を講師にお招きし、「産業のコメ」とも呼ばれる各種半導体の性質や用途を実験や製作を交えながら親子で楽しく学ぶ機会を提供した。

日 時 2 月 23 日 (日・祝) 13 : 30 ~ 15 : 30

場 所 実験・工作室

指導者 東 徹 氏 (熊本大学名誉教授)

協力者 熊本大学生 : 全 5 名

参加者 15 名



半導体教室の様子

◎ 糸が回る、目が回る？！フーシュルシュル！

ストローを通して容器に息を吹き込むと、空気の流れに乗って糸が回転する楽しい玩具。流体である空気の性質や気圧の変化について学ぶことができる簡単な科学工作。

糸の両端を結んで「輪」を作る際、できるだけ結び目を小さくする工夫がポイント。

日 時 2月24日(月・振)

①10:30～11:30

②14:00～15:00

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 2回合計:58名



製作物:フーシュルシュル

◎ 木の不思議・木の魅力&円形木琴を作ろう

家屋の建材や生活用品としての活用はもとより、地球温暖化との関連が指摘される二酸化炭素の削減にも有用な樹木の恵みについて学ぶことができる木育教室。熊本大学の先生を講師に、樹木の魅力や特性を学んだあとは、木材を使った「円形木琴」の製作に取り組んだ。木琴が奏でる癒しの音色に、参加者は穏やかな表情で聴き入っていた。

日 時 3月8日(土) 14:00～15:30

場 所 実験・工作室

指導者 田口 浩継氏(熊本大学教授)

ほか、全12名

参加者 24名



癒しの音色「円形木琴」

◎ 紫キャベツ紙で不思議なお絵かき

紫(レッド)キャベツの色素(アントシアニン)を煮出し、ろ紙に染み込ませてマジカルペーパーを作る。身近な果汁や水で薄めた液体洗剤等を絵の具にして綿棒に浸し、マジカルペーパーの上に塗るとカラフルな絵が描ける。

リトマス紙ではなく、自作の紫キャベツ紙でも水溶液の性質(酸性・中性・アルカリ性)を調べることができるので理科学習にもお勧め。

日 時 3月15日(土) 14:00～15:30

場 所 博物館「実験・工作室」

指導者 山口 均(当館研究員・理工)

参加者 20名



マジカルペーパーを使ったお絵描き

◎ 春の体験ミュージアム:科学のひろば2025

崇城大学との共催イベントで、「飛行機のフラップを応用したペーパー竹とんぼづくり」「光る生き物のしくみ」「7色LEDで折り紙を光らせよう」「スーパースライムづくり」、全4ブースを定員制(事前申込制)で開設。そのほか、「半導体の作り方でも不思議なシールを作ってみよう!」という科学工作・体験ブースを自由参加型で出展していただいた(当日参加が可能)。

参加者は「身近な生活」や「ものづくり」に潜む不思議な科学の世界にふれることができた。

日 時 3月22日(土)

①13:00～13:45

②14:00～14:45

③15:00～15:45

場 所 博物館「実験・工作室、講堂」

指導者 崇城大学教職員及び学生 全 13 名

参加者 3 回合計＋自由参加人数：88 名



科学のひろば 2025 の様子

キ こども自然学び教室

自然に関する室内体験教室と野外観察会を実施した。

(ア) 葉っぱのスタンプでオリジナルグッズ作り
葉に絵の具を塗りスタンプとして使い、オリジナルのハンカチやバッグを作成した。

日 時 10 月 5 日 (土) 13 : 30～14 : 30

場 所 実験・工作室

担 当 山口 瑞貴 (当館学芸員・植物)

参加者 26 名

(イ) 石ころなんでも相談会

日 時 12 月 1 日 (日)

①10 : 00～11:30 ②13 : 00～15:30

場 所 常設展示室 2 階 地質展示コーナー

担 当 南部 靖幸 (当館学芸員・地質)

参加者 ① 9 名 ② 36 名

持ち込み標本数 5 点 (うち 4 点を同定)

(ウ) ちりめんモンスターをさがしてみよう！

ちりめんじゃこに混じった多様な生きものを観察し、海の生態系について考えた。

日 時 1 月 18 日 (土)

①10 : 00～10 : 40 ②13 : 20～14 : 00

場 所 実験・工作室

担 当 清水 稔 (当館学芸員・動物)

参加者 2 回合計：41 名

(エ) 立田山観察会

日 時 8 月 18 日 (日) 10 : 00～11 : 30

場 所 立田山

担 当 清水 稔 (当館学芸員・動物)

山口 瑞貴 (当館学芸員・植物)

参加者 22 名

(オ) 立神峡観察会

日 時 9 月 28 日 (土) 9 : 00～16 : 30

場 所 立神峡公園 (氷川町)

担 当 清水 稔 (当館学芸員・動物)

山口 瑞貴 (当館学芸員・植物)

南部 靖幸 (当館学芸員・地質)

参加者 21 名



観察会の様子

(カ) 化石と海辺の生きもの観察会

日 時 11 月 16 日 (土) 9 : 00～17:00

場 所 上天草市龍ヶ岳町

講 師 川路 芳弘 氏 (北部中学校)

南部 靖幸 (当館学芸員・地質)

清水 稔 (当館学芸員・動物)

山口 瑞貴 (当館学芸員・植物)

参加者 13 名



観察会の様子

（２）学校教育支援事業

「ゲストティーチャー派遣授業」及び
「館内学習支援活動」

ア 実施の経緯

社会教育・生涯学習の拠点施設である博物館と学校との連携（博学連携）については、その必要性・重要性が以前にも増して高まってきた。そのような状況をふまえ、これまでに行ってきた様々な教育普及活動の中で学校教育に関わる部分を強化すべく、教材として価値のある収蔵資料と学芸班職員の知識・技能を授業の中で有効活用するため「ゲストティーチャー派遣授業」を行っている。

また、館内展示物や収蔵資料を学習活動に活かすため、平成 28（2016）年度には市内の小中学校の教職員（全：8 名）を研究協力員に委嘱し、学芸員との協働による「館内学習支援プログラム」の「原案作り」に着手。平成 29 年度は、その原案に編集・校正作業を加えて冊子化し、熊本市内：全小中学校への配布を済ませた。そして、平成 30 年 12 月 1 日のリニューアルオープン以降、平成 31 年（2019 年）1 月より館内学習支援活動も試行的に実践を始めた。

こうして、令和元年度（2019 年度）より「ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）」と「館内学習支援活動（お迎え事業）」の両輪が本格稼働することとなり、現在に至っている。今後も学校教育支援事業（博学連携）の更なる充実を目指し、実践を通して内容改善に努めていく。

イ 直近及び令和 6（2024）年度の取組

平成 26・27（2014・2015）年度は「学校教育支援事業モデル校 2 校（小学校）」に絞って派遣授業を行ったが、平成 28（2016）年度からは（熊本地震後の 2 学期より）主な対象校を市内全域の小中学校（92 校）に拡げ、学校側からの要請に応じて可能な範囲で事業展開中。

派遣授業（お出かけ事業）の内容については、平

成 27（2015）年度中に「派遣授業 学習プログラム集 2016」を作成し、市内全ての小中学校（約 140 校）に配布して周知を図った。そして、館内学習支援活動（お迎え事業）については、前述のとおり平成 29 年度末に「館内学習プログラム集（全 50 題材：120 頁）」を作成・配布し、リニューアルオープン後の実施に備えた。

熊本市が採択した令和 2（2020）年度小学校教科書、令和 3（2021）年度中学校教科書の変更に伴い、令和 2 年度は「派遣授業 学習プログラム集」を、令和 3 年度は「館内学習プログラム集」を改訂し、いずれも当該年度末に市内全ての小中学校へ 2 冊ずつ再配布した。また、今年度の小学校教科書変更に伴い、「派遣授業 学習プログラム集」の改定を行った。

令和 5（2023）年度は「派遣授業」が延べ 20 校：29 時間（内、Zoom による遠隔授業が 6 時間程度）で、市内の学校だけでなく市外からの要請も受けている「館内学習」は延べ 59 校：69 プログラムの実施となった。

令和 6（2024）年度は別表に示しているように、「派遣授業」は延べ 11 校：18 時間（内、Zoom 授業：延べ 2 時間程度）、「館内学習」は延べ 45 校：54 プログラムを実施した。館内学習支援活動においては、プログラム集で紹介している学習シートだけでなく、冊子内に掲載していない写真資料や実物資料も交えながら担当の学芸班職員が興味深い解説を行うため、プログラムの体験者たちは意欲的に学習に取り組んでいる。

令和 4（2022）年度より学校教育経験者が 3 名に増えたこともあり、博学連携チームとしてより手厚い団体（来館者）対応が可能となった。結果、来館した県内の学校は小学校 76 校・中学校 17 校と、増加傾向にある。今後もスタッフ相互の定期的な情報交換を通してよりよい運営方法を模索し、学校教育支援事業を充実させていく。

また、令和 5（2023）年度より対象校を市内全域の小中学校に拡げ、当館及び塚原歴史民俗資料館

へ招待している「スクールシャトルバス事業」は、今年度も年度始めに参加校を募り、抽選にて小学校 10 校、中学校 1 校を招待した（博物館 8 校、塚原歴史民俗資料館 3 校）。博物館では、プラネタリウムを視聴したり、館内学習や展示室見学をしたりして学習を深めた。また、塚原歴史民俗資料館では、古墳やたくさんの考古・歴史・民俗展示物を見学したり、勾玉作りを体験したりして楽しく学んでいた。

ウ ギャストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）【延べ 11 校：18 時間】（Zoom 授業で実施：Z 印）

※総合的な学習の時間は「総合」と略記

実施日	学 校	学年	教科等	タ イ ト ル	担 当 者（分 野）	人数	時間数
5/16	大津高校	2 年	理 科	江津湖の水生動植物相の現状 と博物館の役割	清水 稔（動物）	40	2 時間
5/28	第二高校	1 年	理 科	江津湖の概要と動植物相につ いて	清水 稔（動物） 山口 瑞貴（植物）	41	1 時間
6/25	泉ヶ丘小	4 年	総 合	江津湖の生物について	清水 稔（動物）	70	1 時間
6/26	オンラインスクール	全	理 科 社会科	音の実験（Z） 歴史展示解説（Z） タネの話（Z）	松下 公博（教育） 木山 貴満（歴史） 山口 瑞貴（植物）	50	1 時間
7/9	碩台小	3 年	理 科	タネのつくり	山口 瑞貴（植物）	22	1 時間
9/6	田迎小	5 年	理 科	植物の種子や実のでき方	山口 瑞貴（植物）	73	2 時間
10/20	城西小	6 年	理 科	土地のなりたち	南部 靖幸（地質）	120	2 時間
12/20	向山 幼稚園	年長	生 活	ものづくり教室 博物館の紹介	松下 公博（教育）	16	1 時間
2/26	オンラインスクール	全	理 科 社会科	谷川俊太郎さんの話（Z） 民俗展示解説（Z） 動物展示解説（Z）	井手 正昭（教育） 湯川 洋史（民俗） 清水 稔（動物）	30	1 時間
3/ 6	西原小	6 年	理 科	電気の利用	山口 均（理工）	120	4 時間
3/ 7	慶徳小	3 年	理 科	おもちゃショーを開こう	山口 均（理工）	15	2 時間



碩台小 3 年理科「タネのつくり」



向山幼稚園年長「ものづくり・博物館の紹介」

エ 館内学習支援活動（お迎え事業）【延べ 45 校：54 プログラム】

実施 日	学 校	学年	教科等	タ イ ト ル	担 当 者（分 野）	人数	時間
5/16	大 津 高	2 年	理 科	環境学習 江津湖に生息する動植物	清水 稔（動物）	40	90 分
5/29	枕 崎 市 立 枕 崎 小	6 年	社 会	石器のひみつ	下高 大輔（考古）	76	50 分
7/12	平成さくら 支 援 学 校	2 年	理 科	熊本の動物	清水 稔（動物）	40	40 分
9/ 4	向 山 小	4 年	社 会 理 科	館内展示解説 (展示室にて質疑応答)	山口 均（理工） 井手 正昭（教育） 松下 公博（教育）	87	40 分
9/ 6	慶 徳 小	5・6 年	社 会	古墳・展示物見学 勾玉作り体験	稲津 暢洋（考古） 今田 治代（考古） 山口 均（理工） 井手 正昭（教育） 松下 公博（教育）	35	2 時間
9/20	熊本大学附属 中 学 校	3 年	総 合	学芸員の仕事	木山 貴満（歴史）	2	40 分
9/25	鹿児島盲学校 小 学 部	5・6 年	社 会	熊本城の歴史	木山 貴満（歴史）	2	20 分
9/26	菊 池 市 立 花 房 小	3・4 年	理 科	ステゴドンひみつ	松下 公博（教育）	15	20 分
9/26	熊本支援学校 小 学 部	5 年	理 科	科学工作	山口 均（理工）	15	40 分
9/27	春 竹 小	6 年	社 会	古墳・展示物見学 勾玉作り体験	稲津 暢洋（考古） 今田 治代（考古） 山口 均（理工） 井手 正昭（教育） 松下 公博（教育）	92	2 時間
10/ 1	龍 田 小	2 年	生 活	博物館の役割 蒸気機関車について	松下 公博（教育） 井手 正昭（教育）	91	40 分
10/10	宇 土 市 立 宇 土 東 小	3 年	社 会	昔の人の暮らし	湯川 洋史（民俗）	42	30 分
10/11	益 城 町 立 広 安 西 小	3 年	社 会	昔の人の暮らし	湯川 洋史（民俗）	123	1 時間
10/18	宇 城 町 立 中 央 小	3 年	社 会	昔の人の暮らし	湯川 洋史（民俗）	24	20 分
10/22	益 城 町 立 広 安 小	2 年	生 活	博物館の役割	坂本 直也（保存） 松下 公博（教育）	113	40 分

実施日	学 校	学年	教科等	タ イ ト ル	担 当 者（分 野）	人数	時間
10/23	玉 名 市 立 八 嘉 小	4 年	総 合	自然環境について	清水 稔（動物）	20	30 分
10/23	一 新 小	2 年	生 活	博物館の役割	坂本 直也（保存）	57	40 分
10/24	菊 池 市 立 菊 池 北 小	4 年	社 会	博物館の役割 学芸員について	松下 公博（教育）	28	20 分
10/25	津奈木町立 津 奈 木 小	4 年	社 会 理 科	館内展示解説 （展示室にて質疑応答）	松下 公博（教育）	30	30 分
10/30	上天草町立 維 和 小	1 年 2 年	生 活	科学実験	山口 均（理工）	9	40 分
11/ 8	宇城市立小 不 知 火 小	3 年	社 会 理 科	館内展示解説 （展示室にて質疑応答）	松下 公博（教育）	30	20 分
11/14	南九州市立 宮 脇 小	6 年	社 会	刀剣について	竹原 明理（美工）	6	40 分
11/19	甲 佐 町 立 白 旗 小	4 年	理 科	ステゴドンのひみつ	松下 公博（教育）	8	20 分
11/19	大津町立大 津北・護川小	3 年	社 会 理 科	館内展示解説 （展示室にて質疑応答）	湯川 洋史（民俗） 松下 公博（教育）	35	40 分
11/21	上天草町立 今 津 小	4 年	社 会	昔の道具と人々の知恵	湯川 洋史（民俗）	36	20 分
11/22	フレンドリー	中学生	理 科	科学実験	山口 均（理工）	18	1 時間
11/22	神 崎 市 立 千 代 田 中	2 年	社 会	熊本地震について	松下 公博（教育）	20	40 分
11/28	京 陵 中	1 年	社 会 理 科	館内展示解説 （展示室にて質疑応答）	井手 正昭（教育） 松下 公博（教育）	201	30 分
12/ 5	北 部 東 小	4 年	社 会 理 科	科学実験 館内展示解説	山口 均（理工） 井手 正昭（教育） 松下 公博（教育）	114	1 時間
12/ 6	菊 池 市 立 旭 志 小	3 年	理 科	ステゴドンのひみつ	松下 公博（教育）	30	20 分
12/18	山 本 小	3 年 4 年 5 年 6 年	社 会	古墳・展示物見学 勾玉作り体験	稲津 暢洋（考古） 今田 治代（考古） 山口 均（理工） 井手 正昭（教育） 松下 公博（教育）	53	2 時間
12/18	城 東 小	2 年	生 活	博物館の役割	坂本 直也（保存）	40	30 分

実施日	学校・園	学年	教科等	タイトル	担当者（分野）	人数	時間
1/15	向山幼稚園	年長	生活	ものづくり教室 館内展示解説	山口 均（理工） 松下 公博（教育）	17	2 時間
1/17	隈庄小	4 年	理科	クスノキのひみつ (プラネドーム内にて)	山口 瑞貴（植物）	139	30 分
1/21	鮑田西小	3 年 4 年	理科	科学実験	山口 均（理工）	44	30 分
1/29	池田小	6 年	理科	ステゴドンひみつ	松下 公博（教育）	68	30 分
1/31	月出小	3 年	理科 社会	昆虫の育ち方 博物館の役割	清水 稔（動物） 松下 公博（教育）	76	40 分
2/ 4	銭塘小	4 年	理科	科学実験	山口 均（理工）	18	30 分
2/13	日吉東小	6 年	社会 理科	波奈之丸について ステゴドンひみつ	井手 正昭（教育） 松下 公博（教育）	69	40 分
2/21	天明中	1 年	理科	すごい！体のつくり 水草は何の仲間？	清水 稔（動物） 山口 瑞貴（植物）	56	30 分
3/7	熊大附属小	3 年	社会	昔の人の暮らし	湯川 洋史（民俗）	107	1 時間
3/11	慶徳小	3 年	理科	昆虫の体のつくりを調べよう	清水 稔（動物）	15	30 分
3/18	武蔵小	4 年	理科	科学実験	山口 均（理工）	57	30 分
3/21	竜南中	1 年	理科 社会	館内展示解説 (展示室にて質疑応答)	山口 均（理工） 井手 正昭（教育） 清水 稔（動物） 山口 瑞貴（植物） 坂本 直也（保存）	101	1 時間



慶徳小 5・6 年「弥生時代の暮らし」



一新小 2 年 「博物館の役割」

オ 総合的な学習の時間（再掲）

実施日	学 校	学年	タ イ ト ル	担 当 者 （ 分 野 ）	人数	時間
6/25	泉ヶ丘小	4 年	江津湖の生物について	清水 稔（動物）	70	1 時間
9/20	熊本大学 附属中	3 年	学芸員の仕事	木山 貴満（歴史）	2	40 分

カ KEW（熊本エデュケーションウィーク）での取組

令和 2（2020）年度から熊本市が始めた取組で、熊本博物館は令和 3（2021）年度より参画した。

当館が行っている「博学連携事業」の一端を、学校関係者、社会教育関係者、児童・生徒・保護者、一般の方々に広く知っていただきたいとの思いで動画を制作・配信している。

令和 4（2022）年度は、中学生の「ナイストライ事業（職場体験学習）」、高校生の「インターンシップ事業」、大学生の「博物館実習」、教職員向け「夏季研修講座」の様子を紹介した。

令和 5・6（2023・2024）年度は、学芸員や研究員が行っている様々なイベントに関する情報発信を行った。子どもにも大人にも興味を寄せてもらえるよう工夫を凝らした内容となっており、毎回多くの方に参加していただいている。今回はその様子を企画者の思いや参加した子どもたちの感想を含めて 10 分程度の番組にまとめて紹介した。

ともに、YouTube でのアーカイブ視聴が可能である。

(3) 講師派遣

日 時	内 容	場 所	担当者（分野）	人数	主催等
4/20 10：00～12：00	壺台橋架橋と茂見伴右衛門の測量術について	郷土會所 kura	木山 貴満（歴史）	15 名	熊本土木文化研究会
8/4 9：30～10：30	福井市交流事業対応 ～科学実験・工作体験	実験・工作室	山口 均（理工）	31 名	地域教育推進課
8/5 10：00～12：00 14：00～16：00	～文化財講座～ 銅鏡鑄造体験	あさぎり町生涯学習センター	坂本 直也（保存） 山口 均（理工）	16 名	あさぎり町教育委員会
8/8 15：20～16：10	教員のための博物館の日 in 水俣	熊本県環境センター（水俣市）	山口 均（理工）	11 名	熊本県博物館ネットワークセンター
8/9 10：00～11：00	出水南小家庭教育学級（親子で楽しむ科学）	実験・工作室	山口 均（理工）	25 名	校区公民館（教育政策課）
8/18 9：30～10：30	白山小家庭教育学級（親子で楽しむ科学）	実験・工作室	山口 均（理工）	37 名	校区公民館（教育政策課）
9/15 9：10～10：00	西里小 6 年 PTA 活動（科学実験・工作体験）	実験・工作室	山口 均（理工）	52 名	西里小 6 年 PTA
9/21 9：45～11：45	熊本城を考古学する	熊本市市民活動支援センター “あいぼーと”	下高 大輔（考古）	20 名	熊本史談会
9/23 9：30～11：30	親子水の生きもの教室	江津湖	清水 稔（動物）	49 名	子育てネットワーク縁側 moyai
10/19 13：00～15：00	令和 6 年度くまっ子リーダー体験塾	免田保険センター	坂本 直也（保存）	26 名	球磨郡公民館連携協議会
10/27 10：00～14：30	八景水谷に生息する生物の観察会	熊本市水の科学館及び八景水谷公園	清水 稔（動物）	24 名	熊本市上下水道サービス公社
10/30 13：00～15：30	令和 6 年度宮崎県博物館等協議会 第 2 回研修会「文化財の保存環境」	ウェルネス交流プラザ	坂本 直也（保存）	25 名	宮崎県博物館等協議会
11/26 10：00～11：00	熊本博物館の概要 展示物解説	講堂	松下 公博（教育）	80 名	池田校区まちづくり委員会
12/1 10：00～11：30	出水小 2 年 PTA 活動（科学実験・工作体験）	出水小学校体育館	山口 均（理工）	145 名	出水小 2 年 PTA
12/15 12：50～10：10	熊本城復旧シンポジウム「熊本城と地形・地質～周辺地形・地質の成り立ちとその利用に迫る～」	熊本市市民会館 シアーズホーム 夢ホール 大会議室	南部 靖幸（地質）	269 名	熊本城調査研究センター
12/21 13：00～16：30	公開セミナー 五木村の焼畑と地域振興	熊本博物館	湯川 洋史（民俗）	33 名	五木村教育委員会 国立民族学博物館
1/15 9：45～10：45	簡単な実験と工作体験	実験・工作室	山口 均（理工）	20 名	向山幼稚園

日 時	内 容	場 所	担当者（分野）	人数	主催等
1/18 10：00～12：00	わくわくえづっこ塾 「春の七草を探そう」	水前寺江津湖公園広 木地区	山口 瑞貴（植物）	4 名	水前寺江津湖公園 サービスセンター
2/1 10：00～11：30	キッズ・ミュージアム in 玉名（科学工作）	玉名市民会館議会棟	山口 均（理工）	25 名	熊本県博物館ネッ トワークセンター
2/2 10：00～14：00	熊本の大地の成り立ち 金峰山の芳野層を学ぶ	金峰森の駅 みちくさ館周辺	南部 靖幸（地質）	24 名	熊本県博物館ネッ トワークセンター
3/4 10：30～17：00 3/5 13：00～15：00	熊本を代表する近世城郭 の特別史跡熊本城跡と大 宰府後詰の古代山城鞠智 城跡（現地案内）	特別史跡熊本城跡、 熊本博物館、史跡鞠 智城跡	下高 大輔（考古）	13 名	公益財団法人古都 大宰府保存協会
3/12 9：45～10：45	簡単な実験と工作体験	実験・工作室	山口 均（理工）	20 名	百合ヶ丘幼稚園
3/25 13：20～14：20	令和 6 年度歴史講座「公 文書が語る熊本の歴史」	桜の馬場城彩苑 総 合案内所 多目的交 流室	木山 貴満（歴史）	60 名	熊本市歴史文書資 料室

（４）教職員研修

ア 館内学習プログラム解説編

「活用資料の魅力や価値に迫る！」

学校教育支援事業で活用する「館内学習プログラム集」を基に、そのプログラム内で紹介している館内展示物・資料等の価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに解説した。

館内学習プログラム集は新規の内容を中心に、座学と現地（展示室）での資料見学・実物見学を通して補足説明・質疑応答などを行った。

日 時 8 月 19 日（月）

① 9：00～11：45（人文系解説）

② 13：15～16：00（理工系解説）

参加者 ① 7 名 ② 13 名

イ 向山幼稚園職員研修

幼稚園児を対象とした簡単な「ものづくり」について、松下教育普及支援員が園に出向いて講話と製作・体験活動を行った。

日 時 12 月 20 日（金）10：00～11：00

参加者 向山幼稚園教職員・園児 20 名

（５）博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施した。

期 間 8 月 21 日（水）～26 日（月）

大 学 熊本大学 6 名、崇城大学 1 名、立命館大学 2 名、佐賀大学 1 名、西南学院大学 1 名、久留米大学 1 名、鹿児島大学 1 名（計 13 名）

内 容

（1 日目）オリエンテーション、館内見学、管理事務・設備概要

（2 日目～6 日目午前）

【自然系】動物・植物・地質・天文・保存科学実習・ミュージアムカフェ・プラネタリウム対応・課題製作

【人文系】考古・歴史・美術工芸・民俗・保存科学・撮影実習・プラネタリウム対応・課題製作

（6 日目午後）展示課題発表・まとめ

（６）社会教育実習

社会教育主事の資格取得（単位取得）に必要な社会教育施設での実習受入れを行った。

具体的には、こども科学教室の準備・補助、企画
展関連イベント補助、小学校館内学習の補助、プ
ラネタリウムの券売補助、バックヤード見学、学
芸業務体験（動物・植物分野）、来館者対応（接客）
等の実務の一端を実際に体験する機会を設けた。

期 間 12月17日（火）、18日（水）
21日（土）、22日（日）
実習生 熊本大学3年生 1名

（7）職場体験・インターンシップ

今年度はナイストライ2件、インターンシップ1
件を受け入れ、館内業務・学芸業務体験等の機会
を提供した。

ア 職場体験（ナイストライ）

日 時 ① 7/9～7/11 ② 9/10～9/12
参加者 ① 京陵中学校 2名
② 西山中学校 4名

イ インターンシップ

日 時 7月2日（火）～4日（木）
参加者 湧心館高校 4人

（8）見学・観覧等

ア 崇城大学

地学実験室の授業の一環として館内見学、プラ
ネタリウム見学。

日 時 6月8日（土）9：00～12：00

イ 九州ルーテル学院大学

人文学部児童教育課程2年生の授業の一環とし
て体験活動、館内見学、プラネタリウム見学。

日 時 6月29日（土）13：00～17：00

ウ 日本総合教育専門学校

教員養成課程の学生に向けた、博学連携につい
ての講義と館内見学、プラネタリウム見学。

日 時 9月5日（木）9：20～10：00

エ 東海大学

文理融合学部地域社会学科の授業の一環として、
歴史と美術工芸の講話及び館内見学。

日 時 10月5日（土）11：00～12：00

オ 東海大学

農学部農学科の授業の一環として、展示室及び
バックヤードの見学。

日 時 10月26日（土）12：00～15：00

カ 尚絨大学

生活科学部、生涯学習概論の授業の一環として、
博物館の役割講話及びプラネタリウム、館内見学。

日 時 1月11日（土）9：30～12：00

（9）ホームページコンテンツ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止（流行抑制）
対策の一環として公開したページ「博物館流 自
然観察・科学工作のススメ」を再構成し、新規コン
テンツを加えて「くまはくオススメ！資料・実験
工作・観察法・エトセトラ 紹介・解説コーナー」
として令和5年（2023）10月6日（金）より公開
し、順次更新している。